

しなののうた

杉並木二百余年の時かさね苔むす根元蛸足のごと



杉田小百合

しなののうた

奥社へは隋神門より急坂に胸突き八丁にて上る

杉田小百合



しなののうた

湧き水が水底までも透きとおり落葉を乗せてゆらりゆらりと



杉田小百合

しなののうた

白樺に赤く染まるる蔦の葉が絡みて白の極立ち見えり

杉田小百合



しなののうた

刻々と迫る夕映え山の端にどすんと陽は落ち闇ひろがりぬ



杉田小百合